

平成27年度第3回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成27年度第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成28年1月25日(月)午後3時00分～4時00分
3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室F
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名
金子馨委員長、三浦茂一副委員長、成田篤彦副委員長、梶山林継委員、
川戸貴史委員、島立理子委員、實形裕介委員、石井良幸委員
教育委員会事務局6名
鹿間和久教育部長、齊藤良二教育部次長、今関章文化課長、
小高幸男副主幹、中能隆副主幹、寺原進主事
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題 新版『木更津市史』発刊計画について(公開)
報告1 平成27年度第2回木更津市史編集委員会議事内容(公開)
報告2 木更津市史編集部会 部会長・部会委員の委嘱について(公開)
その他 (公開)
6. 傍聴人 なし
事務局(小高副主幹)

定刻となりましたので、ただいまから第3回木更津市史編集委員会を開会いたします。本日の進行は、文化課小高が務めさせていただきます。よろしくお願いたします。なお、池田委員、堀切委員より、欠席のご連絡がありましたのでご報告いたします。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、成立しております。また、会議は公開で行ないます。ご了承下さい。

本日、高澤教育長におきましては、他の公務により本委員会に出席できませんので、鹿間教育部長よりごあいさつ申し上げます。

鹿間教育部長 あらためまして、皆さんこんにちは。本来ならば、高澤教育長からご挨拶がありますけれども、公務が重なっておりますので私からご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、木更津市史編集委員会にご出席いただきましてありがとうございます。また、本年第1回目ということで、今後ともよろしくお願いたします。

ここ数日の気象状況としては、沖縄では観測以来、初めての曇が降ったということですが、ここ木更津については天候に恵まれてそのようなことは

ありませんが、委員の皆さまにおかれましてはご健康に留意されて市史編集にご協力・ご助言等々よろしくお願いいたします。

さて、本題に入りますが、後ほど事務局から報告がありますが、先月付で木更津市史編集部会の部会長及び部会委員の委嘱をし、近世部会、近現代部会、民俗部会及び自然部会が動き出しました。

現在、市史編さんに係る調査が本格的に開始しているところでございます。

これに伴いまして、本日は新版『木更津市史』の発刊計画についてご審議いただくこととなっております。

調査・研究の成果を取りまとめる長期的な計画となっておりますが、忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局（小高副主幹）

続きまして、金子委員長よりご挨拶をたまわりたいと存じます。

金子委員長 皆さんこんにちは。大変寒い中、（市庁舎移転により）会議場所も変わった関係で戸惑ってしまいましたが、お出でいただきありがとうございます。

お正月も3週間が過ぎ、あと10日も過ぎれば立春となります。異常気象の関係で天気のほうもおかしいことがあります。元日は快晴で初日の出もよく見られ、とてもいい始まりだったのでいい気持ちでいたのですが、しばらくしてスキーツアーのバス事故があり、食品関係の廃棄処分したものを再利用していたり、最近では大臣の贈収賄が問題になったり、また世界各地では相変わらずテロが続いており、平穏になってほしいところです。

この市史編集委員会の過去2年間の中で、市史編集の基本方針や構想、また具体的な計画について協議を重ね、そして今、具体的な活動が出来るようになってきました。

本日は、具体的な活動に係る議題が一つと、二つの報告があるということでございますので、皆さんご審議のほどよろしくお願いいたします。

事務局（小高副主幹）

ありがとうございました。会議に入る前に資料確認をお願いいたします。

（資料確認）

それでは、議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を金子委員長をお願いいたします。

金子委員長 それでは、議長を務めさせていただきます。本日は、一つの議題が事務局か

ら提出されておりますので、事務局の説明をお願いします。

事務局（寺原主事）

それでは、説明させていただきます。議題の新版『木更津市史』の発刊計画についてですが、はじめに1ページと2ページをご覧ください。

平成27年3月に策定いたしました木更津市史編集基本構想及び基本方針別表4の刊行計画に基づき、『通史編』5巻、『史料編』8巻、『民俗編』10巻、『自然編』2巻、合計25巻の計画を立案いたしました。発刊予定年度につきましては、それぞれ記載したとおりとなっております。

その他といたしまして『目録・索引』4巻、民俗編のデジタルコンテンツは、「中島の梵天立て」等の無形民俗文化財の動画、更にWeb公開といたしまして『通史編』『民俗編』『自然編』を考えております。

更に『木更津市史研究』および『公開講座記録集』の発刊及び公開計画について作成いたしました。

このうち『通史編』につきましては、資料2ページの別表1の内容で編集・刊行する予定となっております。

『史料編』につきましては、『考古編』ですが、『通史編』の『原始・古代編』を2編構成にしておりますので、それにあわせて『考古編1』は旧石器時代から古墳時代まで、『考古編2』は古代から近世までとしております。

『史料編』の『近世編1・2』と『近現代編1・2』の内容につきましては、合併前の旧町村をもとに9箇所を基準にしております。

次に『民俗編』の『資料編』につきましては、地区ごとの調査報告書形式で刊行することとしております。

これを踏まえて資料3～5ページにあるように、各専門部会の設置時期および調査等の実施時期につきまして計画を立て、協議、調査等を進めていただいております。

なお、地区の調査順につきましては、木更津地区のように著しく変貌している地区は資料の散逸あるいは消失している可能性が高いと思われるので、こうした地区から調査を始めたいと考えておりますが、木更津、清川、真舟地区等のように地区によりましては明確に区分できないところもあるので、こうした場合は調査順にこだわらず調査を進めたいと考えております。

なお、大幅に計画を見直す必要が生じたときは、見直しを図りたいと考えております。

委員の皆さまには『史料編』および『民俗編』の調査報告書の構成、調査の

順番を含めてご審議いただきたいと存じます。私からは以上でございます。

金子委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から議題に関して説明がありました。

審議の前にこれまでの調査状況について、事務局に改めて確認いたします。

事務局（小高副主幹）

これまでの調査ですけれども、まず悉皆調査でございますが、平成 25 年度の市史編集委員会でご説明いたしましたように、平成 8 年度から平成 15 年度にかけて木更津、波岡、清川、鎌足において行っております。

ただし、それぞれの地区全域を調査しているのではなく、いくつかの家や集会場、寺社に限られております。

この他、平成 25・26 年度に郷土博物館金のすずと図書館に保管してあります資料の目録を作成するため、本委員会の三浦副委員長や實形委員を中心に調査を行っております。

また自然についても、成田副委員長を中心に『図説 木更津のあゆみ』刊行後の経過観察を行っております。以上でございます。

金子委員長 ありがとうございます。それでは、今のことも踏まえながらご意見願います。

川戸委員 資料 2 ページの別表 1『木更津市史』通史編刊行内容の『中世編』で、この基本方針に沿って(木更津市史)製作するということが決まっておりますが、中世の場合、鎌倉時代、南北朝・室町時代、戦国時代の 3 編に大まかに分けると明記されております。

ただ、対象とする時期のスタートは、ここで書かれているのは荘園公領制の成立した 11 世紀の終わり頃からとなっておりますので、鎌倉時代の前の時代から対象にするとなっておりますから、ここは、実際に中世編を刊行する際にこの内容を鎌倉時代よりもう少し前の名称として 3 編に分けるという方針にすることは可能でしょうか。

ここで決めてしまうと変えられないと理解してよろしいのでしょうか。

事務局（小高副主幹）

以前の市史編集委員会でご説明いたしましたように、『通史編』の内容については実際に市史編集部会を立ち上げ、市史編さん作業を進める中で見直しが必要になった場合は、その都度見直しを図りたいと思っております。

實形委員 4 ページに近世部会調査、整理、編集、刊行計画となっております。調査は基本的に地区別に悉皆調査をしながら出てきた史料を整理していくということ

ですけれども、これを見ると地区別に 2 巻が分かれてしまうということでしょうか。

事務局（小高副主幹）

刊行計画については、地区ごとに調査を進める中で、資料 2 ページの下段別表 4 の中で『史料編』の近世編 1 は平成 32 年度、近世編 2 は平成 37 年度刊行で計画しており、調査地区順も期間ごとに分けて行いますから、刊行も地域に区分けして刊行したほうが良いだろうということで計画しました。

皆さまには、今回の計画のように地区ごとに分けて刊行したほうが良いのかどうかも含めてご協議いただきたいところでございます。

實形委員

どの史料が残っているのかどうかで（『木更津市史』を）作るのか決まってくると思います。いわば史料内在型の構成になるということです。

江戸時代の最幕末の時点で木更津市域には 66 の村があったので、一応、木更津市としては、万遍なくなにかしら触れられるように江戸時代の村の全ての名主さんの家から出てくれば理想ですが、出なかったら近隣からカバーするようになると思います。

結局、史料調査をどこまで追えるのか、史料調査のラインをどこに設けるのかによって刊行計画を見直すようになってくると思います。

そこからオーソドックスな構成で出来ると思いますが、木更津らしさがなければ意味がないので、木更津に残っている史料から、こういう章立てや構成が出来るかを調査しながら検討して見直していくようになると思います。

恐らく、『近世編 1・2』は上巻、下巻というようになると思うので、うまく近世の木更津像を描けるように史料をもとに内容構成をしっかりと考えていきたいと思っております。

事務局（小高副主幹）

今のご意見を踏まえながら、市史編集部会の部会長および部会委員の方々と協議して進めたいと存じます。

石井委員

1 ページの『民俗編』の『民俗調査報告書 1（木更津）』は平成 31 年度刊行予定と、残すところあと 4 年となりますが、民俗部会の部会長・部会委員は 3 名ということで人数の増員というのがありますか。

事務局（小高副主幹）

この点につきましては、新年度から増員する予定です。他の専門部会につきましても調査の状況に応じて増やしたいと考えております。

島立委員

実際に調査して行って、多分状況も変わってくると思うので、そのときはこ

の計画にとらわれなくてやっていただければいいのではないのでしょうか。

事務局（小高副主幹）

先ほどの石井委員の質問についてですが、今のところ民俗部会は2名の増員、自然部会については1名の増員を検討しております。

三浦副委員長 6 ページの部会長・部会委員のうち近現代部会についてですが、近現代部会も増員は可能ですか。

事務局（小高副主幹）

これにつきましても皆さんにご紹介いただきながら、適宜増員等対応していきたいところでございます。

成田副委員長 自然部会の調査ですが、『自然編』（の構成内容）は環境別に海や、低地、台地とかで記載していくことになると思いますが、地区もあるので地区を考慮しながら調査していくのだらうと思います。

事務局（小高副主幹）

『自然編』は環境別に章立てするけれども、調査はこの計画のように地区ごとで行っていくということによろしいですか。

成田副委員長 環境別に調査していくけれども、調査が抜けてしまうところがあっても困るので、地区名ごとで調査が抜けているところがあれば調査するということです。

金子委員長 この地区別調査も配慮しながら、環境ごとで調査するということですね。

この他、気づいたことがありましたら事務局に連絡していただきたいと思えます。

活発なご意見ありがとうございました。意見も出尽くした感がございますので、審議終了とさせていただきます。事務局は本日の意見を踏まえながら、必要な事務を進めてください。

その他といたしまして2点の報告事項があるということですので、事務局より一括で報告願います。

事務局（寺原主事）

それでは、報告1 第2回木更津市史編集委員会の議事内容について、私から報告いたします。

前回の市史編集委員会は、昨年7月27日（月）に委嘱状交付式のあと開催いたしました。議題は委員長、副委員長の選出で、互選により委員長には金子馨委員、副委員長には三浦茂一委員と、成田篤彦委員が選出されご了承いただきました。議題は以上になります。

報告事項といたしましては、木更津市史編集部会の設置及び市史調査協力員

の登録に係る事務の進捗状況のご報告と、昨年9月5日（土）に開催いたしました木更津市史編集事業公開講座の内容予定について説明いたしました。報告1につきましては、以上でございます。

事務局（小高副主幹）

続きまして報告2 木更津市史編集部会の部会長及び部会委員の委嘱についてご報告いたします。

資料2 ページの木更津市史編集基本構想及び基本方針別表4の刊行計画に基づき、近世部会、近現代部会、民俗部会、自然部会の四つの専門部会を立ち上げ、部会長および部会委員22名を12月1日付けで委嘱いたしました。

委嘱した方々は、資料6 ページに記載したとおりでございます。

部会委員として三浦副委員長、成田副委員長、實形委員にもご協力いただいております。先ほどもご説明いたしましたように民俗部会の委員数は少ないですが、4月に増員準備しております。

専門部会の活動状況ですが、12月25日（金）に部会に係る説明会を委嘱した方々全員を参集して開催しております。内容といたしましては、市史編集事業の事業概要や市史編集部会の活動計画等を説明いたしました。

今月に入り近現代部会、民俗部会、自然部会が調査方法等の協議や、現地調査等を行っております。今後も各専門部会の部会長を中心に調査等を継続して進めるよう依頼いたしました。

また、残る考古部会等の4つの専門部会につきましても、順次立ち上げる予定です。報告2は、以上でございます。

金子委員長 　ただ今の報告事項について、質問がございましたらお願いします。

實形委員 　部会がいよいよ立ち上がって本格的な活動が始まるわけですがけれども、編さん室というか、作業所はこれからどうしていくのかをお願いします。

事務局（小高副主幹）

作業場所につきましては、準備するよう協議しております。新年度以降、場所が決まりましたら、部会の方々にはご案内する予定でございます。

梶山委員 　今後、編集委員会は年に何回くらい予定していますか。

事務局（小高副主幹）

当委員会は、市史編集計画の審議と調査を行い、事業遂行に必要な事項を市長に答申又は建議することとされております。これまで委員皆さまのご協力により漸く市史編集部会も立ち上げ、本格的な活動を開始しております。

従いまして、来年度以降は、これまでどおり年4回ということではなく、あ

る程度落ち着きを見せておりますので、それを踏まえて3回の開催を予定しております。

梶山委員 ある意味（事業は）長期的で、一番早く出るのは『木更津市史研究』が平成29年度からということですので、一般市民には（『木更津市史』編さんに係る）活動を始めているのだという広報活動を上手にお願いしたい。

成果が上がってくるのは、これ（議題）で見ると平成31年度で、今年は平成27年度ですから大分先になります。

その間が多少なりとも研究段階になると思いますので、是非、一般向け広報で活動しているのだということを上手にお願いしたいと思います。

他に図録が出るとかあれば違うのですが、今回は『史・資料編』からということですので、是非、広報活動をよろしくお願いします。

事務局（小高副主幹）

その点につきましては、他の自治体で進めている編さん事業の広報活動を参考にしながら行ってまいります。

金子委員長 広報活動を充実したものにしていきたいと思います。

それでは質問等もございませんので、ここで議長の職を解かせていただきます。また、お気づきの点があれば、出来るだけ早く事務局にお伝えいただき、スムーズな編さん事業の活動を進めていきたいと思います。

本日は、ありがとうございました。

事務局（今関文化課長）

金子委員長ありがとうございました。以上を持ちまして第3回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。

ここで一点だけ。先ほどの市史編さん室の話がでておりましたが、前回の『図説 木更津のあゆみ』の刊行のときは潮見資料庫で行っておりました。

現在、皆さまの利便性や資料の保管できるスペースを調整しており、なるべく交通の便のよいところを考えております。よろしくお願ひいたします。

委員の皆様方には、ご審議ありがとうございました。

次回の市史編集委員会の開催につきましては、皆さまと調整しながら日程が決まり次第、ご案内いたします。

本日は、議長の進行により早く終わることができました。ありがとうございました。またよろしくお願ひいたします。

平成 28 年 1 月 25 日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 金子 馨